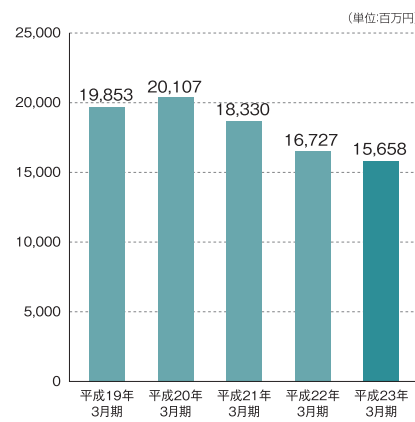


当行の業績について(個別)

経常収益

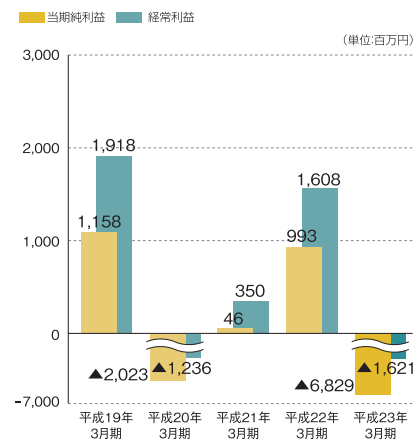
経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金が減少したことなどから、156億58百万円(前年同期比10億69百万円減)となりました。



経常利益・当期純利益

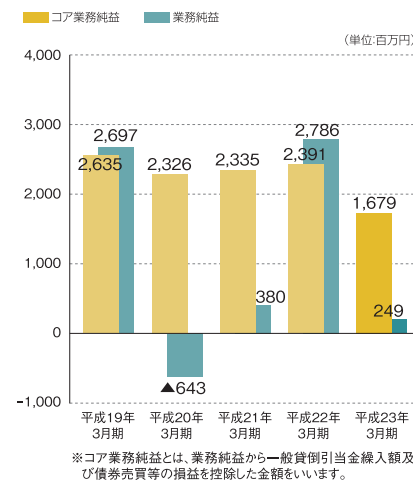
経常利益は、株式市場の低迷等の影響により、保有有価証券の一部について24億円の減損処理を実施したことなどから、16億21百万円の損失(前年同期比32億29百万円減)となりました。

当期純利益は、東日本大震災に係る特別損失31億円を計上したことなどから、68億29百万円の損失(前年同期比78億22百万円減)となりました。



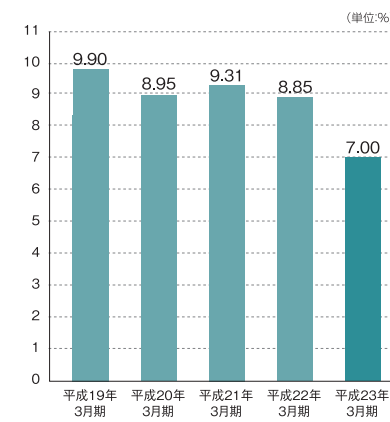
コア業務純益・業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益が減少したことや金融派生商品損益(金利仕組みローン等)の改善幅が縮小したことなどから、16億79百万円(前年同期比7億11百万円減)となりました。



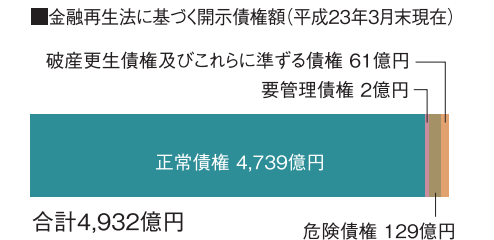
単体自己資本比率(国内基準)

単体自己資本比率(国内基準)は、前年同月比1.85ポイント低下し、7.00%となりました。



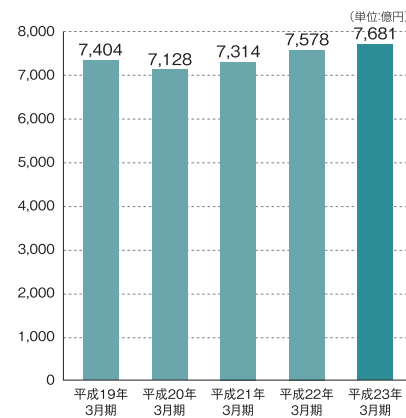
金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、銀行の保有する債権(貸出金・支払承諾見返等)のうち、正常債権以外の債権額は、193億1百万円(前年同月比23億85百万円減)となりました。



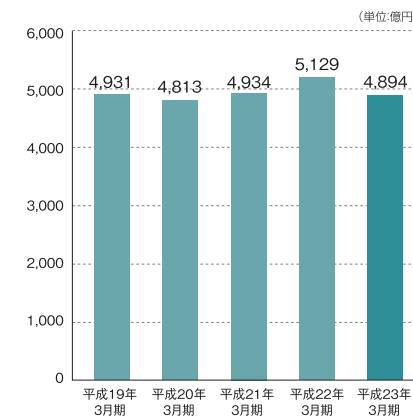
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、個人預金や法人預金が増加したことなどから、7,681億62百万円(前年同月比103億42百万円増)となりました。



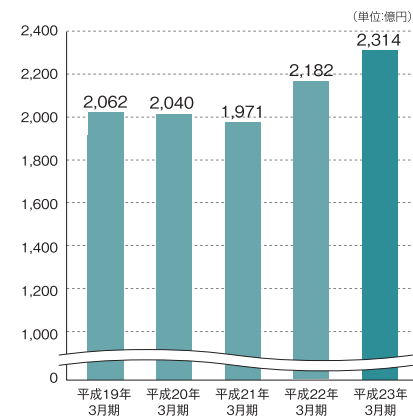
貸出金残高

貸出金残高は、中小企業向け貸出が増加したものの、地方公共団体向け貸出や大企業向けの政策融資が減少したことなどから、4,894億44百万円(前年同月比235億13百万円減)となりました。



有価証券残高

有価証券残高は、地方債や社債が増加したことなどから、2,314億97百万円(前年同月比132億34百万円増)となりました。



格付

当行では、第三者による評価をととして、財務内容の健全性と経営の透明性を積極的に開示していくことにより、株主やお取引先の皆さまに当行の経営状況をより深くご理解いただくことを目的に、株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しております。

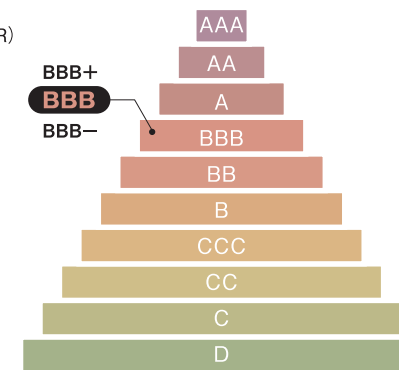
格付機関
株式会社日本格付研究所(JCR)

格付種類
長期優先債務格付

格付
#BBB(#トリプルBフラット)

見通し
ネガティブ

(平成23年6月末現在)



金融再生法開示債権の保全内訳

	債権額(A)	保全額(B)			保全率(B/A)
		担保・保証等	貸倒引当金	その他	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	6,128	6,128	4,450	1,678	100.00%
危険債権	12,905	12,560	11,158	1,402	97.32%
要管理債権	268	172	139	33	64.21%
正常債権	473,951	264,469	260,769	3,700	55.80%
合計	493,253	283,330	276,516	6,813	57.44%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3か月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

